匠かんいち Takumi Kansai 28

神戸港を支えて半世紀余り

神戸タグ協会

船舶の安全で迅速な入出港・離着岸に欠かせない港湾タグボート。水先人の指示で縦横無尽に大型船をも誘導する。ただ、入出港船のラッシュ時や気象条件、荷役作業の都合などで入出港時間が変更されることがあり、そのオーダーに的確に対応するにはタグボートの効率的な配船が求められる。神戸港でその重要な配船業務を担っているのが神戸タグ協会だ。中瀬俊明理事長は「タグ作業は港湾サービスの一環。高品質のサービスを提供できるかどうかで港湾の格が決まる。今後とも、世界に認められるように効率的で安全・迅速な配船業務を行っていきたい」と話す。

神戸タグ協会は1965年12月に設立、翌66年2月から業務を開始した。それまでのタグ配船業務は神戸市が担当していたが、増加する入港船と74年には既に30隻を超え、80年代には40隻に達した。

推進装置は、固定ピッチプロペラから協会設立当時には遠隔操作が可能な可変ピッチプロペラが主流を占めた。その後、舵を一体化させたシュナイダープロペラに代わり、対象船舶の大型化に伴い、大きな推力と優れた運動性能を持つアジマススラスター装備船が多く投入されるようになった。

高性能のタグボートが就航し順風満帆のように見えたが、80年代半ばから厳しい事態に直面することになる。入港船にスラスター装備船が普及し始めたことだ。必然とタグボートのオーダーが減り、市と事業者は85年度から5年間かけてタグ6隻を減船することを決めた。その一方で、市は89年にタグボートの使用基準を見直し、「最大2400馬力」を「3000馬力以上」(Ⅲ型)に設定、大型船の曳航作業にも対応できるよう港湾サービスを強化した。翌90年には日東運輸が神戸港で初めて3600馬力型タグを投入し、これを皮切りに神戸港で「Ⅲ型タグ」の就航が相次ぐことになる。

90年時点でタグの隻数は、市の1隻と民間8社合わせて33隻となり、各社の新鋭船が出そろいつつあった矢先だった。95年に阪神・淡路大震災が発生。神戸港の港湾機能がダウンし、当然タグボートの仕事量も大幅に落ち込んだ。さらに、98年の強制水先規制の緩和が追い打ちをかけた。それまで神戸港の強制水先対象船舶は「300総トン以上」だったのが「1万総トン以上」に緩和、タグ事業者にとって大きな打撃を受けることになった。

2014年には神戸市がタグ作業に投入していた港務艇「竜王2」が引退し、神戸港のタグ事業は完全民営化に移行した。現在は設立当初からの8社が3600馬力型を中心に17隻のタグボートを投入。配船業務は協会職員7人が24時間・365日体制で取り組む。

中瀬理事長は「入出港船の離着岸をサポートするタグ作業は港湾機能の一部。協会は、タグの確実で効率的な配船業務を担う使命がある」と強調。その上で、今後の業務運営面の課題として、関係機関との連絡調整をはじめとする配船業務の情報化の推進を指摘。併せて職員の人材育成とともに「魅力ある職場づくり」を目指す考えだ。協会設立から半世紀余り。今後も神戸港の港湾サービスを支えていく。

(第1・3金曜日掲載)

上中瀬理事長
下港湾サービスの一翼を担うタグボート

組織概要

名称＝協同組合神戸タグ協会▷所在地＝神戸市中央区港島3－2▷電話＝078・302・7901▷理事長＝中瀬俊明▷資本金(出資金)＝2000万円▷事業内容＝引き船作業の共同配船事業、火災や海難などの海上災害における救援事業など

上JAL新上屋が竣工 下20年度は4万トン超の貨物を取り扱う

屋面積4900平方㍍)をメディア向けに公開した。JALは新上屋で輸出貨物を取り扱う。同社は2020年度に成田空港で継ぎ越しを含めた年間12万―13万トンの貨物を扱う実績を見込む。

既存上屋(上屋面積9300平方㍍)から新上屋へ貨物を移転。10日搬入分から取り扱いを開始する。

新上屋では、計量器2台を含む3600馬力型タグボート3隻を配船する。

航空貨物 Air Cargo

阪神エクスプレス 阪急阪神エクスプレス

1月輸出重量33…欧・アジアが前…

阪急阪神エクスプレスの2020年1月の日本発着航空貨物扱い実績は、重量が前年同月比3320トン…続で減少し…アジアが前年…た。輸出件数…の9774件…連続でマイ…た。

方面別輸出…TC1(米州…増の709…(欧州)が…07トン、TC…ア)が42%減…4トン。

TC1の…月連続。米…西部向けが…した。

TC2は…リカ向けが…全体で精彩…内では重量…カ月連続のマ…った。

TC3の…月連続。イ…好調だった…けの荷動き…た。

輸入件数…万1429件…続で減少した…